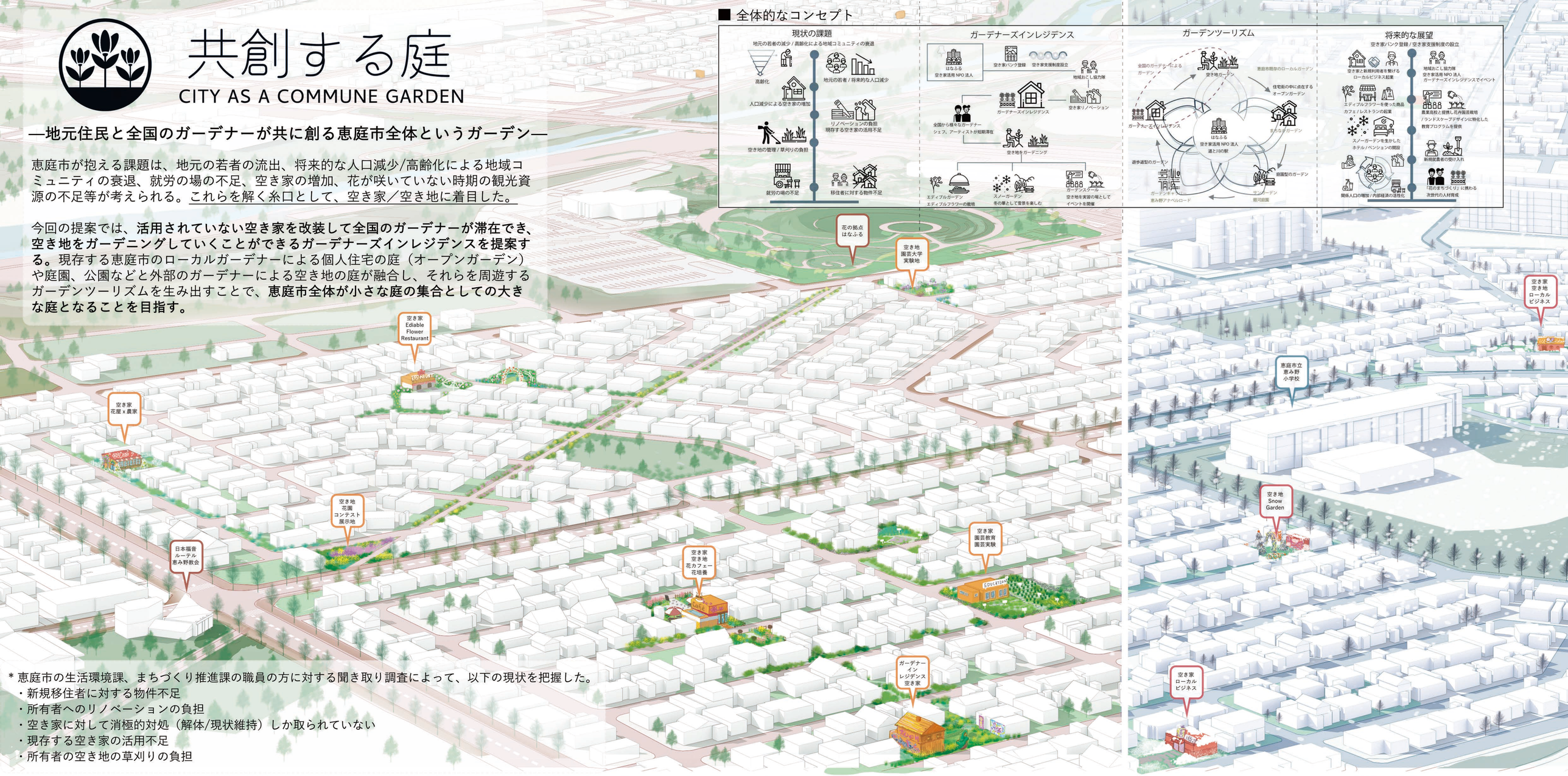
共創する庭

CITY AS A COMMUNE GARDEN

—地元住民と全国のガーデナーが共に創る恵庭市全体というガーデン—

恵庭市が抱える課題は、地元の若者の流出、将来的な人口減少/高齢化による地域コミュニティの衰退、就労の場の不足、空き家の増加、花が咲いていない時期の観光資源の不足等が考えられる。これらを解く糸口として、空き家／空き地に着目した。

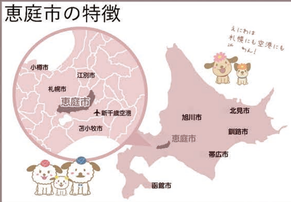
今回の提案では、**活用されていない空き家を改装して全国のガーデナーが滞在でき、空き地をガーデニングしていくことができるガーデナーズインレジデンスを提案する。**現存する恵庭市のローカルガーデナーによる個人住宅の庭（オープンガーデン）や庭園、公園などと外部のガーデナーによる空き地の庭が融合し、それらを周遊するガーデンツーリズムを生み出すことで、**恵庭市全体が小さな庭の集合としての大きな庭となることを目指す。**



* 恵庭市の生活環境課、まちづくり推進課の職員の方に対する聞き取り調査によって、以下の現状を把握した。
- 新規移住者に対する物件不足
- 所有者へのリノベーションの負担
- 空き家に対して消極的対処（解体/現状維持）しか取られていない
- 現存する空き家の活用不足
- 所有者の空き地の草刈りの負担

■ 全体的なコンセプト

恵庭市の特徴



恵庭市は北海道の空の玄関である新千歳空港と、道内最大の都市である札幌市のほぼ中間に位置する、人口約7万人の郊外型都市である。充実した都市機能を有している一方で、恵庭岳の裾野から広がる雄大な自然環境と、主要産業のひとつである農業が織りなす美しい田園風景にも恵まれている。

恵庭市はまた道内有数の花の生産地であると同時に、恵み野地区を中心に個人宅でのガーデニングなども盛んで、「花のまち」としても全国的に知られている。

恵庭市人口の遷移

恵庭市は早くから住宅地整備を進めると共に、公共下水道や大学・専門学校、工業団地などの都市基盤の整備が進められ着実に人口が増えてきている。

「花のまちづくり」の歴史と未来

1961年
花いっぱい文化協会が会員7名（秋田県雄物川会）で設立。「まちを花でいっぱいにしよう」。

1991年
恵み野地区では、住民が愛好会を結成し、自分たちで企画・運営をこなすガーデニングコンテストを毎年開催している。

2008年
「花のまちづくりプラン」の改訂、「景観形成基本計画」の策定、「観光振興計画」の策定がなされていますが、いずれの計画においても「花のまちづくり」は重要な取り組みとして位置づけられている。

2022年
全国都市緑化北海道フェア

社会的問題

人口高齢化

総務省の発表により、恵庭市も高齢化が社会問題となっていて、2025年には高齢化率が全国平均データを超えると予測されている。

空き家＆空き地の増加

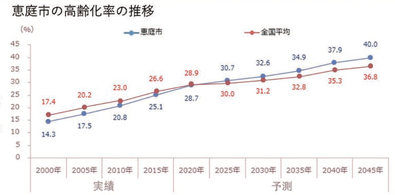
恵庭市の人口は増加する傾向があるが、高齢化に伴ってコンミュニティーの衰退、空き家&空き地が増えているなどの問題がある。

空き家問題

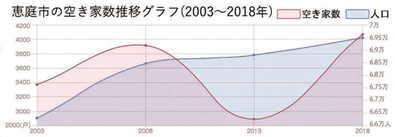
少子高齢化による人口減少社会への移行や世帯構成の多様化、既存建築物の老朽化など、社会情勢や環境の変化に伴い、全国的に空家等が増加傾向にある。

恵庭市では、空き家の所有者は管理が大変なので基本的には現状維持かまるっきり解体して売る、貸すといった方向にしたい人が多いようだ。

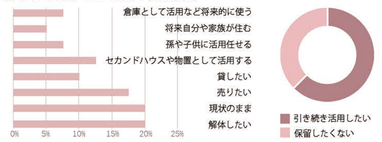
恵庭市の高齢化率の推移



恵庭市の空き家数推移グラフ(2003～2018年)



所有者における空き家の利用方法



デザイン課題の抽出

ソフト面

1. SDGs目標の実践
2.「花のまちづくり」に携わる市民の拡大や意識の醸成、次世代の人材育成
3. 情報発信をしていくための環境整備
4. 恵庭市ならではの観光資源の魅力不足
5. コロナによる人々の暮らし方や働き方の変化

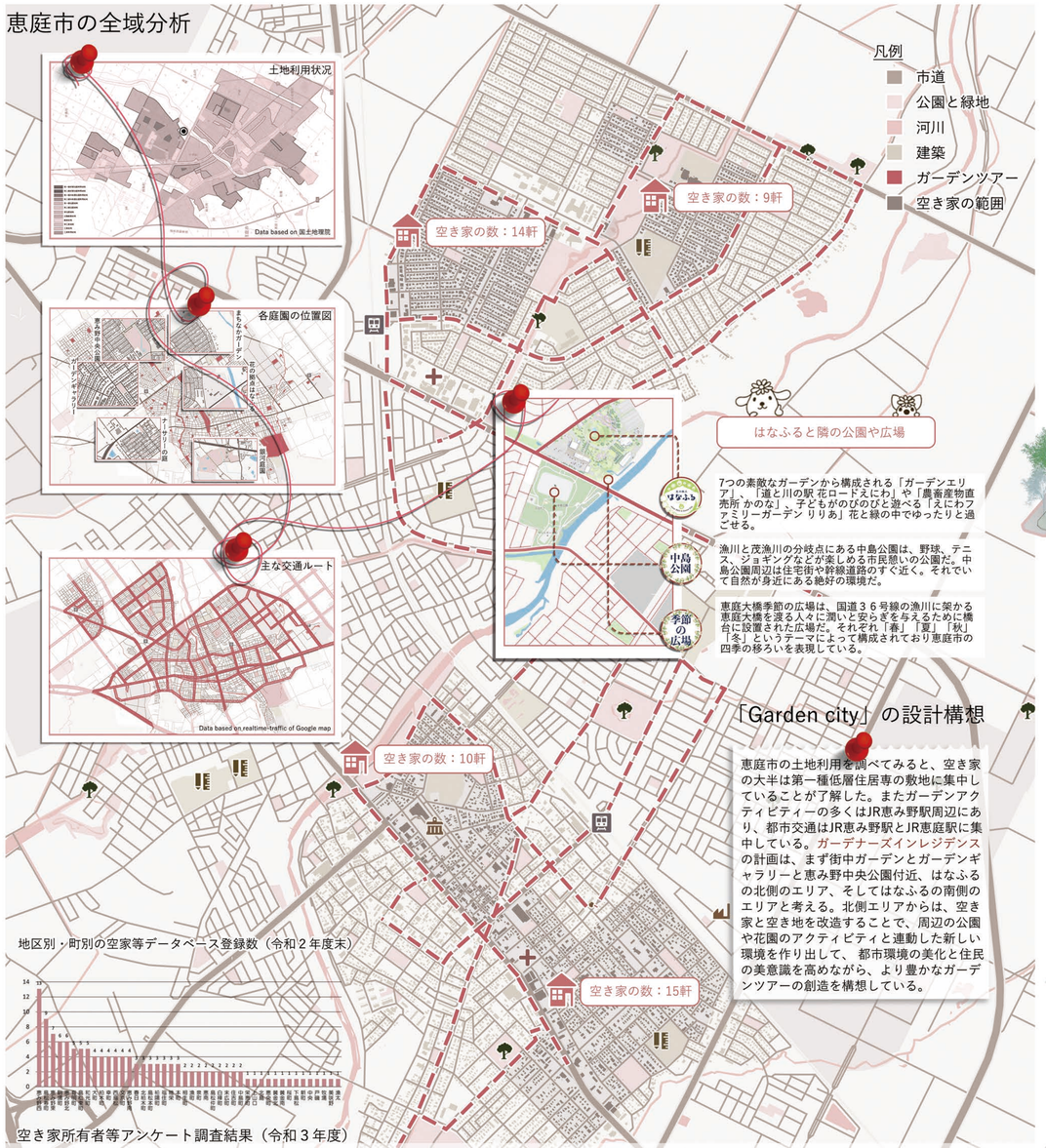
ハード面

1. 人口減少と高齢化に伴い地域コミュニティの衰退
2. 花と触れ合う公共的な場所が少ない
3. 人口減少による空き家の増加
4. 観光の宿泊施設が少ない
5.就労の場が不足

Garden Cityの未来へ

恵庭市では、2015 年に策定した恵庭市総合戦略「ガーデンシティプラン～日本のガーデンシティがここにある～」に基づき、移住定住環境整備、都市観光、ライフステージに応じた子育て支援策等を展開している。政府が「規模や効率を求めるばかりのまちとはちがう、花と緑に溢れたり、人々が生活の中で花と緑のな楽しみを味わえたり、多くの人々が移り住みたい【花のまち】の将来像を発表した。しかし、高齢化による空き家・空き地の増加などで周囲の景観環境が損なわれていることや、花のまちづくり活動を展開するための次世代人材が不足している。花の拠点：はなふるを中心に、都市に存在する空き家や空き地を主なデザイン対象として、恵庭市がどのようにガーデンシティという将来像を実現していくかを検討する。

恵庭市の全域分析



「Garden city」の設計構想

恵庭市の土地利用を調べてみると、空き家の大半は第一種低層住居専の敷地に集中していることが了解した。またガーデンアクティビティーの多くはJR恵み野駅周辺にあり、都市交通はJR恵み野駅とJR恵庭駅に集中している。ガーデナーズインレジデンスの計画は、まず街中ガーデンとガーデンギャラリーと恵み野中央公園付近、はなふるの北側のエリア、そしてはなふるの南側のエリアと考える。北側エリアからは、空き家と空き地を改造することで、周辺の公園や花園のアクティビティと連動した新しい環境を作り出して、都市環境の美化と住民の美意識を高めながら、より豊かなガーデンツアーの創造を構想している。

地区別・町別の空家等データベース登録数（令和２年度末）